

# カツオ 大西洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



**管理・関係機関**

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

**生物学的特性**

- 最大体長・体重：尾叉長 100 cm・15 kg
- 寿命：6 歳以上
- 成熟開始年齢：満 1~2 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯~温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海鳥類等

**利用・用途**

缶詰等の加工品

**漁業の特徴**

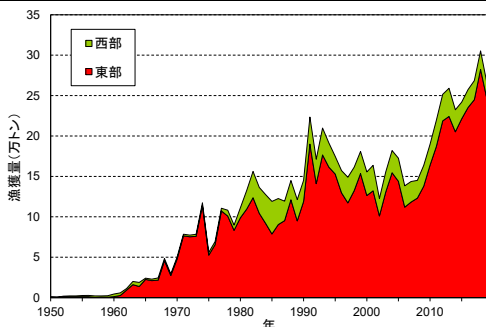
主要な漁業は、東部大西洋でのスペインのまき網、ガーナ、スペイン等の竿釣りと、西部大西洋でのブラジル等の竿釣り、ベネズエラによるまき網である。ひき縄やはえ縄でもわずかに漁獲される。東部大西洋では、近年パナマの漁獲量が増加し、ポルトガルよりも多くなった。主な漁場は、アフリカ西岸ギニア湾の赤道を中心とした熱帯域~北西岸モーリタニア沖のまき網漁場と、ブラジル南東岸沖の竿釣り漁場である。まき網は、1991 年から人工浮き漁礁 (FAD) 操業が本格化し、漁獲量が増大した。

**漁獲の動向**

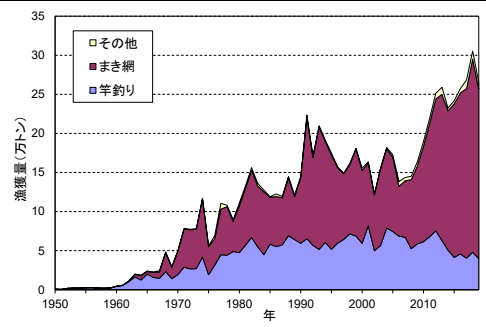
年間漁獲量は 1960 年代には 4 千~5 万トン、1970 年代には 5 万~12 万トン、1980 年代には 11 万~16 万トンで推移した。まき網の FAD 操業開始により、1991 年 22 万トン、1993 年の 21 万トンがピークで、1995 年以降は 12 万~19 万トンで推移している。2011 年以降、漁獲量は 20 万トンを超えるようになり、2019 年には約 27 万トンとを記録した。日本の竿釣りは、1980 年代前半まで東部大西洋で操業し、1976~1981 年には 1 万~2 万トンを漁獲したが、現在は行われていない。

**資源状態**

2014 年 6 月に ICCAT の科学委員会 (SCRS) において資源評価が実施された。大西洋における本種の生物・漁業学的特徴を考慮して東部・西部大西洋の 2 海域に区分して資源評価を実施した。東部大西洋では 2 種類のプロダクションモデル (BSP, ASPIC) 及びその他の 2 種類のモデル (漁獲量のみを用いる資源評価モデル、Gedamke and Hoenig model) を用いて解析を試みた。これらのモデルからは信頼性のある最大持続生産量 (MSY) が得られなかったが、乱獲状態に陥っていることを示す指標も認められていない。西部大西洋では MSY は 30,000~32,000 トンと推定され、資源状態は MSY からの相対値で示された。B<sub>2013</sub>/B<sub>MSY</sub> はおよそ 1.3、F<sub>2013</sub>/F<sub>MSY</sub> はおよそ 0.7 である可能性から、西部大西洋では乱獲状態には陥っていないと推定された。以上から、資源は中位で横ばいと判断された。



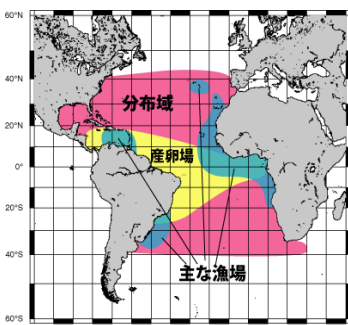
大西洋におけるカツオの漁法別漁獲量の推移 (1950~2019 年)



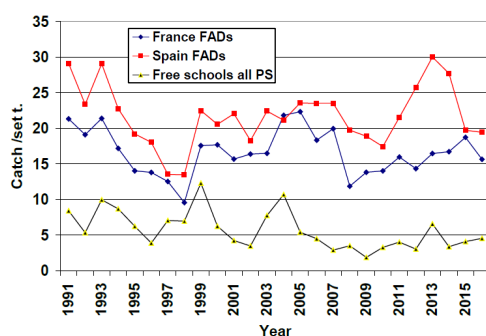
東部及び西部大西洋におけるカツオ漁獲量の推移 (1950~2019 年)

管理方策	
2014 年 11 月の ICCAT 年次会合において、データ不足に起因する資源評価の不確実性が SCRS から指摘されていることを踏まえ、既存の熱帯まぐろ保存管理措置に含める形で、管理方策が初めて設定されることとなった。それにより、カツオを漁獲する漁船の ICCAT への登録、FAD 操業の禁漁区・禁漁期等が設定されることとなった。FAD 操業の禁漁区・禁漁期は新たなものが 2015 年に決定、2016 年に発行され、2017 年より適用され 1~2 月においてアフリカ沿岸域~西経 20 度、南緯 4 度~北緯 5 度の範囲となっている。2019 年の ICCAT 年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、2020 年には 1~2 月の 2 ヶ月間、2021 年には 1~3 月の 3 ヶ月間、大西洋全体において FAD 操業の禁止を決定した。FAD 数は、1 隻当たり一度に 350 基 (2020 年) 及び 300 基 (2021 年) までとなった。2022 年以降の措置は今後決定される予定である。	

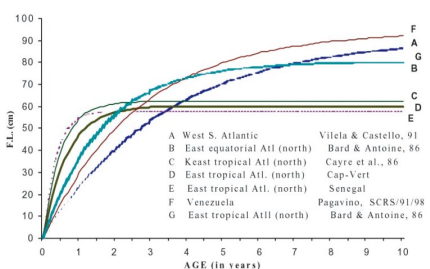
カツオ (大西洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	中位 (西部)
資源動向	横ばい (西部)
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	25.7 万~30.5 万トン 最近 (2019) 年: 26.5 万トン 平均: 26.8 万トン (2015~2019 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1.1~5.0 トン 最近 (2019) 年: 5.0 トン 平均: 3.0 トン (2015~2019 年)
管理目標	MSY (3.0 万~3.2 万トン (西部) )
資源評価の方法	プロダクションモデル (BSP, ASPIC) 等
資源の状態	悪化の兆候は認められない
管理措置	漁船登録 FAD 操業の禁漁区・禁漁期、FAD 数制限
最新の資源評価年	2014 年
次回の資源評価年	2022 年



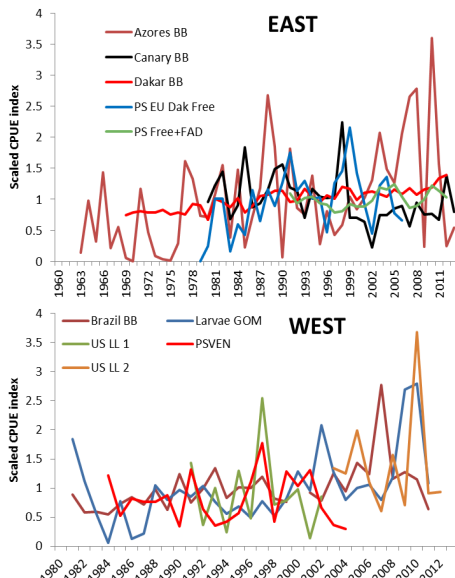
大西洋のカツオの分布域、産卵場及び主な漁場



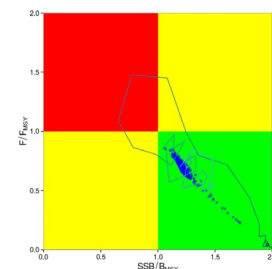
東部大西洋におけるまき網によるカツオ漁獲量 (1 操業あたり漁獲量) の推移 (1991~2016 年)  
France FADs: フランスのまき網船・FAD 操業、Spain FADs: スペイン・その他のまき網による FAD 操業、Free schools all PS: まき網による素群れ操業。



大西洋のカツオの成長曲線  
A~G の曲線は各海域で報告されたカツオの成長を示す。



東部大西洋 (1960~2013 年、上) 及び西部大西洋 (1980~2013 年、下) におけるカツオ CPUE の経年変化  
Azores BB: アゾレス諸島の竿釣り、Brazil BB: ブラジルの竿釣り、Canary BB: カナリア諸島の竿釣り、Dakar BB: セネガルの竿釣り、Larvae GOM: メキシコ湾における仔魚採集データ、PS EU Dak Free: ダカールに水揚げされたヨーロッパまき網船の素群れ操業、PS Free+FAD: まき網 (素群れ+FAD 操業)、PSVEN: ベネズエラのまき網、US LL: 米国のはえ縄。



Schaefer 型の ASPIC から推定された西部大西洋のカツオにおける B / B<sub>MSY</sub> と F / F<sub>MSY</sub> の歴史的推移